

はじめての店舗づくり 3

4 色彩を考えよう

店舗づくりにおいて、レイアウト計画や陳列計画などと同様に、色彩計画も重要な店舗づくりの要素となります。店舗や商品陳列の色彩計画によって、店舗のイメージは大きく変わります。今回は色の基本を再確認いたします。

①色の三原色

色を表現するための基本となる色で、シアン (Cyan)、マゼンタ (Magenta)、イエロー (Yellow) の3色のことです。これらの混合によってあらゆる色彩を表現することができます。これら3色は色を重ねるごとに暗くなり、3色を等量で混ぜ合わせると黒色になります。また、光の三原色は赤 (Red)、緑 (Green)、青 (Blue) の3色です。(図1)

②色の三属性

色相	色相とは赤、青、緑のような色味の違いのことを表します。また色相を円上に配置したものを色相環と言います(図2)
明度	色のもつ明るさの度合い。明るさ暗さを感じたら明度を操作します。
彩度	色の持つ鮮やかさ。もう少しはっきりした色や、色合いを落とした時に操作します。

図1 色の三原色

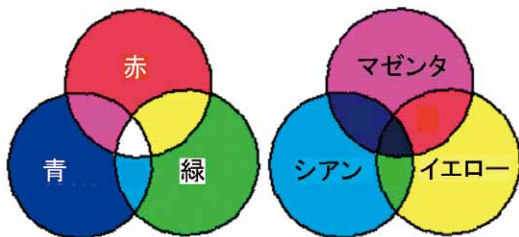
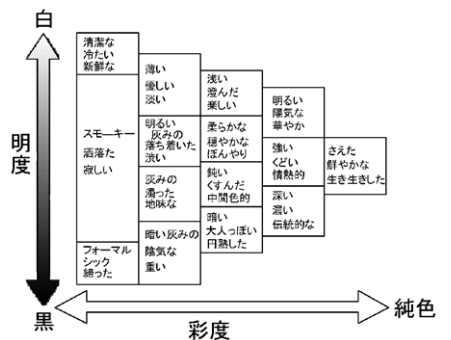


図2 色相環



図3 色のイメージ



③色のイメージ (図3)

暖色	赤、橙、黄色	暖かい、明るい、情熱的、女性的、前進、緊張
寒色	青	涼しい、理知的、沈静、清純、男性的、収縮
中間色	緑、紫	おとなしい、地味な、高尚な、重厚な
無彩色	白、灰、黒	清潔、憂鬱、威厳、冷静、強さ、無機質、硬い

④色の配置

- 色が豊富にある場合、色相環やグラデーションの順に並べると自然な流れに纏まります。
- 色相環で、元の色の隣近所の色を組み合わせると「おとなしく自然な調和」となり、離れた色を組み合わせると「派手さ、新鮮さ」を感じる配色となります。
- 色と色の組み合わせでバランスが取れない場合、また、バラバラな色味で似たもの同士の色をもとめてもバランスが取れない場合、間に無彩色を挟むとバランスが取れます。
- 多くの色があり纏まらない場合、中心になる色を見極め類似の色相で纏めたり、色調別に並べ見極めた色相を積極的に活用することで、まとまりとインパクトを得られます。
- 同じ色の色調の違う色でまとめると、エレガントで品のある雰囲気に演出できます。
- 隣り合う商品の色が影響しあい違う色に見える事があります。例えば、赤い商品の中に黄色い商品があると緑色に見える事があり注意しなければなりません。
- 同じ色では大きな商品は、小さな商品より明るく見えます。
- 明度差のある色の組み合わせは、遠くからでも認識しやすくなります。

5 照明を考えましょう

色彩と同様に照明も店舗づくりには欠かせない装置です。

①照明の役割

商品照明	商品を照射し、商品の特性や価値を伝える照明
ベース照明	店舗全体の基本となる照明、暗いところを明るくする照明
サイン照明	看板やボードサインのほか誘導看板などの照明
演出照明	店舗の雰囲気の演出のために用いられる照明

②照明の照射方法

直接照明	直接照射する手法で、散らばった光を照射する散光（均一に周囲を明るくする）と集まった光を照射する集光（照射の範囲が明確で際立たせる）があります。
間接照明	商品に直接照射せず、壁など一度別のものに照射し反射光を利用する照射方法で、売場を柔らかく光で包み落ち着いた環境を演出します。

③照明計画のポイント

- a. まずベース照明を考えます。明るい店舗を考えるなら天井面にFL照明やダウンライトなどで構成し店舗全体を明るくします。
- b. 落ち着いた雰囲気の店舗にするなら、天井面は少数のダウンライトなどで構成し、壁面などにブラケットライトや間接照明を設置し、光量を抑えた照明計画にします。
- c. 照明による空間の演出では、器具による演出と光による演出、そして二つの演出を組み合わせる方法があります。器具ではデザイン性の高いブラケットライト（壁面などに取り付ける）やシーリングライト（天井に取り付ける）ペンダントライト（天井などから吊下げる）、スタンドライトなどを、演出を図る場所に設置します。光による演出では、間接照明やスポットライト等を利用し、光による変化を演出します。この時光の色を考える事も必要です。また、光の量を調光出来る器具もあり、それぞれを組み合わせ光の演出計画を立てます。
- d. 光の種類により、商品が本当の色と違って見えることがあります（演色性）。太陽の下で見る色が基本となります。ファッション店やレストランなど業種によっては、注意しなければなりません。また、それらに対応した照明器具もあるので検討してください。
- e. 良い照明計画が出来たとしても、顧客が店内を回遊したり商品を見ている時、照明の光が目に入り眩しくては意味がありません。眩しくない位置や照射角度に照明器具を設置したり、眩しさ対応がされている照明器具を選択する事が必要です。
- f. 商品によって、照明をあてる角度や方向を考慮してください。正面から当てるとハッキリと見えますが、平面的に見えます。斜めから強く当てると陰影がハッキリとして見えます。それぞれの商品の特性を考慮し照射方向を検討してください。
- g. 近年、店づくりにも省エネルギーの考えが導入されています。照明器具も省エネに対応した器具（LEDランプなど）が多く提供されています。その特性を十分考慮し、照明計画に取り入れる事も必要です。

④器具の一例（※出典：遠藤照明）

シーリングライト	スポットライト	ダウンライト	蛍光灯埋込型	ペンダント	スタンドライト
